

共同シンポジウム開催要領

1 テーマ

「水辺の自然再生ーよみがえる魚たちⅡ」

2 趣旨

私たちの身近な水辺で、河川改修、農薬使用、ほ場整備、外来魚や移植魚の侵入などにより、これまで親しんできた魚たちが絶滅の危機に陥っています。悲惨な状況を打開するため、私たちはあきらめることなく、一貫して科学的な対処方法を開発すると共に、市民・農民レベルでの取り組みを実践してきました。

今回は全国で展開されている活動や技術開発の成果を一般の方々に理解していただくことを主目的に2010年開催のシンポジウムと同一テーマで開催することになりました。第1部では、豊かな自然を次世代へ引き継ぐため、シナイモツゴ里親活動に参加している地元の小学生、農業者、一般市民にも報告していただくことになりました。第2部では自然再生活動の成功事例の紹介を中心に、実現するための新技術や知見を報告します。さらに総合討論で地域との連携や技術開発のあり方について広範囲に意見を求めたいと考えます。

是非、ご参集の上、情報および意見交換に加わっていただければ幸いです。

3 主催： NPO法人シナイモツゴ郷の会、NPO法人杜の伝言板ゆるる
全国ブラックバス防除市民ネットワーク、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会
伊豆沼・内沼周辺集落農業活性化協議会

4 後援： 大崎市、大崎市教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会、
JAみどりの、NPO法人農村地域づくり支援隊
公益財団法人大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)

5 場所： エルパーク仙台 (仙台市青葉区一番町 4-11-1 141ビル)

6 日時： 2012年11月3日(土)
10:00～17:30

7 展示： シナイモツゴ、ゼニタナゴなど水槽展示、活動写真ポスター、出版書籍など

事務局 NPO法人シナイモツゴ郷の会 (シンポジウム企画責任団体)
実行委員長 高橋清孝
問い合わせ先 MAIL yy0910@ktj.biglobe.ne.jp
TEL/FAX 0229-56-2150(留守電対応)
事務局住所 宮城県大崎市鹿島台公民館内

共同シンポジウム 次第

テーマ 水辺の自然再生 よみがえる魚たちⅡ
開催期日 2012年11月3日(土)
会場 エルパーク仙台(仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル)

趣旨説明 高橋清孝(水辺の自然再生シンポジウム実行委員長)

第1部 10:00~12:00 座長 佐藤弘樹(シナイモツゴ郷の会)

ゆたかな自然を子どもたちへ

① 地域の宝シナイモツゴとゼニタナゴを守るために

- ・二宮景喜(シナイモツゴ郷の会) 地域ぐるみの取り組みの必要性と体制づくり
- ・吉田千代志(シナイモツゴ郷の米つくり手の会) 地域住民の取り組み
- ・鹿島台小学校 教頭先生 里親の取り組み

② 地域から全体へ

- ・(杜の伝言板ゆるる) 一般市民との交流をめざす活動

③ リレートーク

- ・鹿島台小学校など3校の里親小学生
- ・市民(里親小学生の母親)
- ・消費者(一般消費者)
- ・農業者 伸^{しんぼう} 菰ふゆみずたんぼ生産組合

④ 自由討論

リレートーク講師へのインタビュー中心

第2部 13:00~17:30

魚たちをよみがえらせるために 進行 坂本啓(シナイモツゴ郷の会)

① 先進知見の紹介 13:00~15:40

- ・西野 麻知子(びわこ成蹊スポーツ大学) 琵琶湖の再生戦略
- ・千野 力(東京都) 多摩川におけるアユなど魚類復元と原因
- ・池田 実(東北大学) シナイモツゴ遺伝子多様性の保全
- ・朝井 俊亘(近畿大学) メダカの新種発見と保全
- ・芦沢 淳(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

アメリカザリガニの生態と駆除

- ・高橋 清孝(シナイモツゴ郷の会)

シナイモツゴとゼニタナゴ生息場の拡大、ため池から河川へ

② 自然再生の取り組み紹介(リレートーク 7分/人) 15:40~16:30

- ・井上 信夫(生物多様性ネットワーク新潟) 外来魚対策-新潟の取り組み
- ・村上 伊佐弥(NPO 亀岡人と自然のネットワーク) アユモドキの保全活動
- ・上原 一彦(イタセンバラ保全市民ネットワーク) イタセンバラの保全活動
- ・鈴木 盛智(手賀沼水生生物研究会)

ゼニタナゴの復元の第1歩としての民間企業との協働

- ・三塚 牧夫(ナマズのがっこう) 池干しによるブラックバス完全駆除
- ・藤本 泰文(伊豆沼バスバスターズ) バス・バスターズの外来魚駆除
- ・鈴木 康文、浅野 功(シナイモツゴ郷の会) シナイモツゴ里親活動

③ 総合討論 16:30~17:30 座長 小林光(ノーバスネット)

*終了後、4,000~5,000円会費で情報交換会を予定しています。